山草連盟の主な行事
（令和８年度）

４月	総　会	中央公民館
５月	春の展示会	舟石川コミセン
６月	寄せ植え講習会	舟石川コミセン
６月	夏の展示会	舟石川コミセン
10月	交換会、芋煮会	舟石川コミセン
11月	文化祭秋の展示会	東海村総合体育館
１月	親　睦　会	近隣の温泉
３月	反 省 会（来年度の計画）	中央公民館

当連盟では、山野草の栽培方法を学習し、挿し芽、植え替え、管理方法など学びます。又時節の山野草自生地見学、研修などの活動を計画しています。

“入会を希望される方は、ご連絡ください”

《連絡先》　山草連盟理事長　小野　和博

令和８年度 東海村文化祭

山 野 草 展 示 会



ヒメアシはすっかり伸び、先端に花穂も見えます。アキバギクは芽数が増え、花の訪れを待っているようです

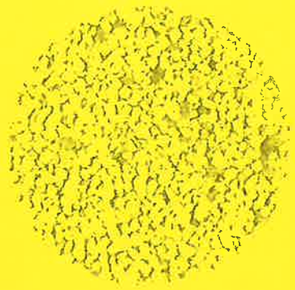
期　日　10月31日(日)～11月3日(火)
但し、11月2日(月)会場が休み

会　場　東海村総合体育館

主　催　東海村文化祭実行委員会

後　援　東海村山草連盟

野草盆栽をつくるために
すべての植物を育む用土



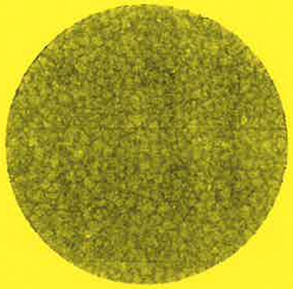
軽石・パミス

多孔質の火山の噴出物、またはそれを人工的に作り出したもので、灰白色，非常に乾きやすく、肥料もちはほとんどない，弱酸性，用土の乾湿を調節するのに便利な用土



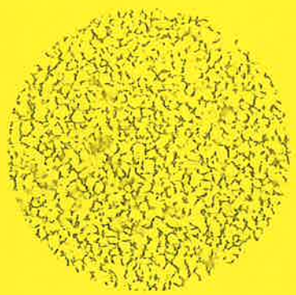
鹿沼土（左）・日光砂（右）

主に栃木県て採れる、火山の噴出物か固まり風化してできた土，水保ちと水はけのバランスか良い，肥料もちは悪い。弱酸性，特に硬くて崩れにくいものは「日光砂」と呼ばれ色か白い



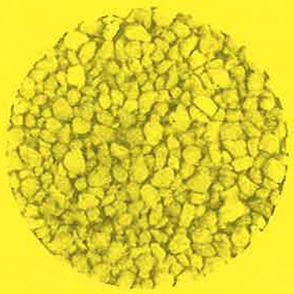
赤玉土

関東ローム層の下層土て、火山灰か堆積してできた土。適度な保水性かあり、弱酸性。「焼赤玉土」は、これを高温て焼いたもので、やや水を含みやすい軽石のような性質て、肥料保ちは悪い



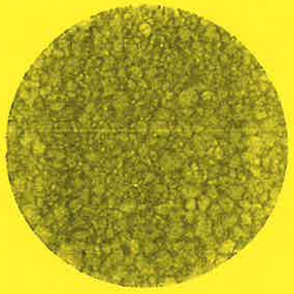
十和田砂

青森県の十和田湖周辺て採れる、火山の噴出物か固まり風化してできた土。多孔質て柔らかい。保水性に優れ、凍害にも強い。肥料の持続性も良く、移植時に根傷みか少ない



日向土（ホラ土）

主に宮崎県て採れる、火山の噴出物か固まり風化してできた土。軽石と鹿沼土の中間的な性質。ほとんと崩れす、さりとて硬すきす、使い勝手か良い。鹿沼土より乾きやすく、弱酸性



桐生砂

主に群馬県て採れる、火山の噴出物か固まり風化してできた土。重く、水もちか良いか、余分な水は残らない。弱酸性。性質は赤玉土の崩れにくいもののようなイメーシ

用土は植物を育てるために必須ですが、初めはどれを買えばよいのか迷ってしまいます。種類ごとに長所と短所があり、一般的にはいくつかの用土を混ぜて使います。用土の主な特性は主に以下の5点です。

保水性　用土が水を蓄える力のことで、保水性が悪いとすぐに水が無くなって植物がカラカラに乾いてしまいます。

排水性　排水性ともいわれ、用土の中をいかに空気が通るかを現します。通気性が悪いと鉢内が蒸れて、根が腐る原因となります。

粒の大きさ　粒が柔らかいと根の張りが良くなりますが、用土が泥になりやすく通気性が悪くなります。粒が硬いと保水性は下がりますが、通気性が保たれます。

酸度　一般的には植物が好む酸度は弱酸性と言われ、多くの用土は弱酸性です。一部ですが酸性を好む植物もあるので、その際は調整が必要です。

清潔さ　ゴミや害虫、あるいは病原菌が入っていないこと。

以上を踏まえて、お住まいの地域で継続して入手できる用土を中心に選ぶと良いでしょう。根腐れを防ぐためなどに用いる土壌改良材も有効です。便利な山野草用土もありますが、メーカーによって内容が異なるので確認しましょう。

イメージする花畑

高原のお花畑

今は亡き友人の案内で行った山梨県・乙女高原。山の斜面がお花畑でとても素敵な光景でした。自然と言うより、かなり手入れをされたものと思われますが、あらゆる花と出会うことができました。そんなお花畑をつくりたくて挑戦しました。



1 将来、根がいっぱいになったら根洗いにしようと思うので、ゴロを入れずに用土を入れ、元肥を少量施してさらに薄く用土を敷く。まずは背の高いフシグロセンノウを左奥寄りに配し、ササバリンドウとマキエハギで挟むようにして配置し、用土を入れる



2 鉢の右半分にホソバノコンギクを配置。このホソバノコンギクは矮性なので、丈が低く咲く



3 オクノカンスゲを外側に散らして植える。用土の上から化粧砂を乗せて水を与える。用土が山盛りになっているので、強く水をかけると用土が流れてしまうため、霧吹きでそっと行う

植え付け素材と配置図



①フシグロセンノウ
②マキエハギ
③ササバリンドウ
④ホソバノコンギク
⑤オクノカンスゲ
※②と④は同じ鉢
※数字は植え付け順序





4 植え付け終了

作業日＊ 2002年7月16日